

ポートフォリオ・マネジャーの今後の見通しについて ＜モビリティ・イノベーション・ファンド＞



当ファンドのリード・ポートフォリオ・マネジャー
ロバート・ツォイテン

平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。
2018年1月22日に運用を開始した「モビリティ・イノベーション・ファンド（以下、当ファンドといいます。）」は、運用開始から2年が経過しました。

本資料では、当ファンドの実質的な運用を担当する、メロン・インベストメンツ・コーポレーションのポートフォリオ・マネジャーからのコメントを基に、下記の項目についてご報告させていただきます。

当資料の内容

P2

今後の見通しについて

モビリティ業界を取り巻く今後の見通し

P3

加速度を増すイノベーションの普及

P4-5

（ご参考）パフォーマンスの状況について

設定来および2019年のパフォーマンス振り返り
パフォーマンスに寄与した銘柄

P6

CES 2020で見られた最新のイノベーション



CES 2020でリサーチを行うロバート・ツォイテン

※画像出所：メロン・インベストメンツ・コーポレーションが撮影

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

設定・運用は



BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第406号

[加入協会] 一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会／一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

ポートフォリオ・マネジャーの今後の見通しについて ＜モビリティ・イノベーション・ファンド＞

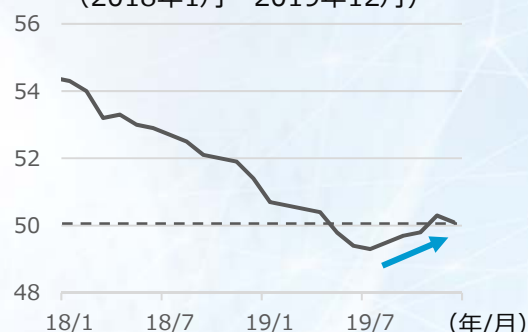
今後の見通しについて

**マクロ経済の回復や5Gの本格的な普及開始が後押し、
2020年はモビリティにとって有望な年に**

マクロ経済回復の兆し

我々は2020年の米国の景気後退の可能性はないと見ています。落ち込みが続いていた製造業企業の景況感を表すグローバル製造業PMIは、ここ数カ月で景気判断の節目である50近辺まで回復していることから、経済回復の兆しが見られています。こうした中、当ファンドでは世界経済の景気回復により恩恵を受けやすいと考えられる景気敏感株のウェイトを増やしています。

グローバル製造業PMIの推移
(2018年1月～2019年12月)



米中貿易問題の懸念後退

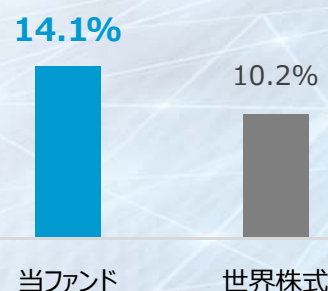
2018年6月以降に本格化した米中貿易問題も足下では第一段階の署名が行われるなど、両国の歩み寄りが見られています。特に自動車関連株は、高い成長性にもかかわらず、米中貿易問題の影響により短期的な売りを浴びせられており、株価見直しの買いの動きが期待されます。

EV推進の強まりと5Gの本格的な普及開始

2020年はモビリティ・イノベーション・ファンドにとって有望な年となるでしょう。中国政府の新エネルギー車販売比率の引き上げや、欧州でのCO2排出規制、COP25での温室効果ガス削減目標引き上げなど、世界各国でEV（電気自動車）普及を積極的に推進する取り組みが強化されてきています。通信分野に目を向けると、5Gは2020年に本格的な実用化が見込まれており、最新型の乗り物や交通システムなどで積極的に導入されると考えられます。

このような好材料を背景に、足下の当ファンドの長期予想成長率は世界株式を上回る水準となっています。

足下の長期予想成長率
(2019年12月末基準)



※向こう3-5年のEPS成長率予想
世界株式：MSCI オール・カンントリー・ワールド・インデックス

出所：ブルームバーグ、メロン・インベストメンツ・コーポレーションのデータを基に、BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

ポートフォリオ・マネジャーの今後の見通しについて ＜モビリティ・イノベーション・ファンド＞

加速度を増すイノベーションの普及

環境意識の高まりを受けて、 EVの開発・普及が一層加速

気候変動への懸念の高まり、EUにおける排出量ベースのペナルティ強化、走行距離の改善、車両の選択肢の拡大は、今後数年間でEVの急速な普及を後押しすると考えます。

中国政府は2019年12月に公表した「新エネルギー車産業発展計画」の素案で、2025年までにEVなどの新エネルギー車の新車販売に占める比率を20%から25%に引き上げる計画を示しています。また、足下では、2020年に打ち切る予定であった新エネルギー車への購入補助金制度を延長する方針を固めています。

当ファンドの運用チームは2019年後半に投資先企業のテスラを訪問し、「モデル3」のロードテスト、米カリフォルニア州フリーモントにある自動車工場の視察、経営陣へのインタビューを行いました。同社はEVのみならず、自動運転やシェアリングなどモビリティのあらゆる側面で革新的なイノベーションを提供しており、魅力的な投資対象と考えています。（2020年1月29日時点の当ファンドのテスラの保有比率：2.0%）



フリーモントにあるテスラの自動車工場を訪問するロボート

5Gコネクティビティの浸透により、 モビリティの可能性はさらに拡大が予想される

2020年は「5G元年」と呼ばれるように、5Gが本格的に普及する年とされています。**高速・大容量、低遅延、多数同時接続を実現する5Gは、既存の通信技術では難しかった高度な自動運転や、よりスマートなモビリティシステムの実現を後押しすると考えます。**

その一例として、トヨタ自動車は、2020年1月に米国のラスベガスで開催された世界最大の家電見本市CES 2020において、**コネクテッドカーや自動運転のEVを中心に、あらゆるモノやサービスをネットにつなげる「スマートシティ」の構想を発表**しました。2020年末に閉鎖予定のトヨタ自動車東日本の東富土工場の跡地に「Woven City（ウーブン・シティ）」を創り、トヨタが商用向けに開発を進めている自動運転EV「イーパレット」などを走らせる計画で、燃料電池を使った発電システムなどを地下に敷設します。



CES 2020のトヨタのウーブン・シティのブース

このように、**通信技術などの発展に伴い、自動車産業のリーダー企業は、従来の自動車産業の垣根を超え、「街づくり」まで裾野を広げることで収益機会の拡大に向けた取り組みを始めています。**（2020年1月29日時点の当ファンドのトヨタ自動車の保有比率：1.5%）

※画像出所：メロン・インベストメンツ・コーポレーションが撮影

※上記は個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。また、将来の組み入れを示唆・保証するものではありません。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなることがありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

ポートフォリオ・マネジャーの今後の見通しについて <モビリティ・イノベーション・ファンド>

(ご参考) パフォーマンスの状況について

設定来の当ファンドの基準価額の推移



2019年、当ファンドは世界株式を上回るパフォーマンスを発揮

2019年の当ファンドおよび世界株式指数の推移



●世界株式：MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックス（円ベース）

※自動車関連株：MSCI オール・カントリー・ワールド・インデックスの自動車・自動車部品産業グループ（円ベース）

出所：ブルームバーグのデータを基に、BNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなることがありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

設定・運用は



BNY Mellon・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第406号

[加入協会] 一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会／一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

ポートフォリオ・マネジャーの今後の見通しについて ＜モビリティ・イノベーション・ファンド＞

(ご参考) パフォーマンスの状況について(続き)

アンシスやキーサイト・テクノロジーズなど 5G関連銘柄が2019年のパフォーマンスを牽引

2019年の当ファンドの寄与度上位銘柄

銘柄名	国	テーマ	平均 保有比率	騰落率	寄与度
アンシス	米国	車のIT化	4.0%	+80.8%	+2.7%
5Gや自動運転に係る大型契約等を背景に、市場予想を上回る好決算が発表された。					
キーサイト・テクノロジーズ	米国	車のIT化	3.6%	+66.1%	+2.2%
5Gの本格的な普及を前に、5G通信テスト用製品群の需要が増加したことなどから、良好な決算を発表した。					
ヤンデックス	ロシア	車の共有（シェアリング）	3.4%	+60.3%	+1.9%
タクシー配車アプリが拡大。ロシア政府による介入が懸念されたものの、当ファンドでは影響は軽微とみて保有を継続。					
STマイクロエレクトロニクス	スイス	EV（電気自動車）	2.5%	+90.1%	+1.9%
テスラ向け製品の供給などを通じて、モビリティ分野における同社の半導体製品の強み、業績拡大が確認された。					
メディアテック	台湾	車のIT化	2.1%	+98.5%	+1.9%
中国の5G対応スマートフォン向け半導体の主要メーカーであることから、普及開始を前に買いが先行した。					

寄与度1位のアンシスのCES 2020のブース



※計測期間：2018年12月31日～2019年12月27日

※画像出所：メロン・インベストメンツ・コーポレーションが撮影

※上記は個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。また、将来の組み入れを示唆・保証するものではありません。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなることがありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

設定・運用は



BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第406号

[加入協会] 一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会／一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

CES 2020で見られた最新のイノベーション

CES 2020 (米国:ラスベガス)

“過去10年の間、スマートフォンをはじめとするモバイルが私たちの生活を根本から変えたと言っても過言ではないが、
次のメガトレンドはモビリティだと信じている”
(CES 2020のソニー吉田社長のコメント)

「CES（世界最大級の家電見本市）」では、昨年に続き、モビリティ・イノベーションに関連する展示が注目を浴びました。

特に、ソニーが自動運転対応のEVコンセプトカーを発表したことが話題となりました。また、3ページでも述べた通り、トヨタ自動車自動運転車などが走る実証都市「コネクティッド・シティ」の構想を表明しました。こうした構想がCESという場で自動車メーカーから発表されたことが、まさにこれからのメガトレンドがモビリティであることを示唆しているとも言えます。



ソニーの自動運転対応のEVコンセプトカー「VISION-S」



ボッシュのIoTシャトルのコンセプトカー



ヤンデックスの自動運転タクシーのテストドライブ



リビアン（Rivian）の電気トラック



メルセデスベンツのコンセプトカー「ヴィジョンAVTR」



アウディのコンセプトカー「Audi AI:ME」



トヨタのコンセプトカー「LQ」

※画像出所：メロン・インベストメンツ・コーポレーションが撮影
※上記は個別銘柄の推奨を目的とするものではありません。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなる場合がありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

設定・運用は



BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第406号

[加入協会] 一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会／一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

＜ファンドの特徴＞

- ・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として、日本を含む世界の金融商品取引所等に上場している自動車関連企業の株式に投資する。
- ・マザーファンドの実質的な運用は、メロン・インベストメンツ・コーポレーションに運用の指図に関する権限を委託する。

＜投資リスク＞

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として内外の株式への投資を行いますので、組入れた有価証券等の値動き(外貨建資産には為替変動もあります。)により、当ファンドの基準価額は大きく変動することがあります。**当ファンドは、元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により解約・償還金額が投資元本を下回り、損失を被る可能性があります。運用により信託財産に生じた利益または損失は、すべて受益者に帰属します。当ファンドは、預貯金とは異なります。**預金保険または保険契約者保護機構の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「株式の発行企業の信用リスク」、「為替変動リスク」、「流動性リスク」、「特定業種・テーマの集中投資に関する留意点」などがあります。※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

＜お申込みメモ＞

商品分類	追加型投信／内外／株式
ご購入単位	＜分配金受取りコース＞ (新規購入時) 10万口以上1万口単位 (追加購入時) 1万口単位 ＜分配金再投資コース＞ (新規購入時) 10万円以上1円単位 (追加購入時) 1万円以上1円単位 ※別に定める場合はこの限りではありません。
ご購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※ファンドの基準価額は1万口当たりで表示しています。
ご購入不可日	販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入のお申込みの受付は行いません。詳しくは、SMBC日興証券にお問い合わせください。 ・ニューヨーク証券取引所の休場日 ・ニューヨークの銀行の休業日
信託期間	2028年1月21日まで(2018年1月22日設定) ※委託会社は、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、信託期間を延長することができます。
決算日	毎年1月21日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ※分配金再投資コースの場合、原則として、収益分配金は税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。再投資を停止し、分配金のお受取りをご希望される場合はお申し出ください。分配金のお受取りをご希望される場合、SMBC日興証券の定める所定の日よりお支払いいたします。
ご換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
ご換金不可日	販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、換金申込の受付は行いません。詳しくは、SMBC日興証券にお問い合わせください。 ・ニューヨーク証券取引所の休場日 ・ニューヨークの銀行の休業日
ご換金代金のお支払い	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

＜ファンドの費用＞

投資家が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、購入口数、購入時手数料率を乗じて得た額です。 購入時手数料率はお申込代金／金額に応じて下記のように変わります。 分配金受取りコース:お申込代金に应じます。(お申込代金は購入価額に購入口数を乗じて得た額です。) 分配金再投資コース:お申込金額に应じます。(お申込金額はお申込代金に購入時手数料(税込)を加えて得た額です。) 1億円未満……………3.30%(税抜3.00%) 1億円以上5億円未満……………1.65%(税抜1.50%) 5億円以上10億円未満……………0.825%(税抜0.75%) 10億円以上……………0.55%(税抜0.50%) ※別に定める場合はこの限りではありません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

投資家が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	運用管理費用の総額＝信託財産の日々の純資産総額×年率1.7985%(税抜1.635%) 運用管理費用は、毎計算期間の最初の6ヵ月の終了日および毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払われますが、日々費用として計上されており、日々の基準価額は運用管理費用控除後となります。
その他費用・ 手数料	マザーファンドの投資顧問会社への投資顧問報酬 委託会社の受取る報酬には、マザーファンドにおいて運用の指図権限の一部を委託している投資顧問会社への投資顧問報酬が含まれます。 投資顧問報酬額＝信託財産に属する当該マザーファンドの受益証券の日々の時価総額×年率0.34% 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用、目論見書等の作成、印刷および交付費用等、その他の管理、運営にかかる費用、組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、外貨建資産の保管費用等が、信託財産より支払われます。 ◆その他費用・手数料については、資産規模および運用状況等により変動しますので、料率、上限額等を表示することができません。

※上記費用の総額につきましては、投資家の皆様の保有される期間等により異なりますので、表示することができません。
※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
※お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください。

金融商品取引業者名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○

BNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社は、2020年4月1日をもって商号を「BNYメロン・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社」に変更する予定です。
2020年4月1日以降、当社名を表す記載につきましては、「BNYメロン・インベストメント・マネジメント・ジャパン株式会社」とお読み替えください。

●当資料は、ファンドの運用状況に関する情報提供を目的としてBNYメロン・アセット・マネジメント・ジャパン株式会社が作成したものです。●当資料に記載の運用実績に関するグラフ、図表、数値その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。●当ファンドは、主に株式等値動きのある証券（外貨建証券は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。特に、投資する外国の株式の価格変動は、為替の変動を含めて大きくなることがありますので、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。したがって、運用実績は市場環境等により変動し、元金を割り込むことがあります。●当ファンドの運用により生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。ファンドは投資元本が保証されているものではありません。●当ファンドの投資リスクについては投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。